

平成
26年度

株式会社中家青果

柑橘類の光センサーを用いた、糖度、内部障害果識別による商品価値化向上計画



会社紹介

地元農家との太いパイプと自慢の青果物を強みに
季節の味わいを安定して消費者に届ける果実卸業



代表取締役 中家 義輝

150農家を超える地元生産者との太いパイプを強みに、品種・品質の優れた青果物を取り扱う「株式会社中家青果」。トップレベルの有田みかんにはじまりポンカン、八朔、甘夏、桃、柿など、生産者と直接契約しているからこそ、価格帯も他社より幅広く提案することができ、他社が在庫を切らすタイミングでも商品の供給を可能にしている。また毎年変化する自然環境の中でも、味の統一を目指し、マルチ栽培を生産者に推進。悪天候の年でもおいしい青果を提供できるように、生産者と一緒に取り組んでいる。

青果は選果作業の際、ブラッシングを極力少なくし、腐敗化が進まないようにも配慮。さらに消費者に安定して品質の高い青果を届けるため「果形選別装置」や「光センサー式果実内容評価システム」を導入。青果物の鮮度を保ちながら付加価値の高い商品を届けることで、商品価値化の向上および幅広い市場拡大を目指している。

補助事業

高品質な選果・選別システムに
果実内評価を加えて要望に対応

青果物は商品として市場流通するため、農林省により主要果物について階級と外観品位による等級の全国統一規格が制定されている。みかんなど大量の収穫物を正確かつ迅速に、選別・包装・出荷するには高品質な選果・選別システムが必要であり、同社では平成25年に「果形選別装置」を導入した。しかし近年は糖度や酸度の縛りのある注文が多く、選別だけでは顧客の満足度を十分に満たすことができなくなっていた。今回導入した「光センサー式果実内容評価システム」では、光センサーを用いて糖度、内部障害果識別を鑑定。市場の要望に対応するとともに、今後、柑橘類の糖度アップは果樹栽培農家にとって重要な課題になることから、ブランド化育成にとっても大きな役割を果たすことになる。



成果

顧客要望に応える正確な品質評価
信頼を得つつ自信を持って精算・指導

作業の流れは、あらかじめ農家で選別されたみかん等の表面目視→果実識別(内容評価)ラインに投入→糖度、酸度、浮皮、す上がりおよび種混入選別→各々の個体をデータベース化→果実寸法等検出装置へ搬送→選別ボックスへ小分け→搬出(箱詰め等)と、さまざまな工程を経て出荷される。今回、同システムを導入したことにより、1つ1つの甘さの正確な品質評価を得ることができ、青果物1個体で他社と差別化。品質評価に基づく成果物の選別で、顧客要望への対応および販路も大きく広がった。味を保証した上での販売のため、顧客の信頼度もアップし、選果工程の省力・省コスト化にも大きく貢献している。また従来の果形選別では難しかった公平な精算と指導も、品質評価に基づいているため、量販店へ販売価格など差別化のアドバイスを行えるようになった。これにより販売戦略・販売先別の工程管理が充実。計画的な出荷に大いに役立っている。



今後の展開

おいしさ求める指導と所得向上
消費者も生産者もみんな笑顔に

今回導入したシステムは、甘さの保証だけでなく、内部障害果を除去することで、消費者が満足する商品を提供。それによりクレーム率も低減している。これらの品質評価が数値により公平になるため、生産者の信頼がより高くなった。今後、選果で得られた品質データを蓄積し、栽培技術へフィードバックすることで生産管理等の経営を拡大。生産者へ適切な指導を行うことで、果実の品質向上に役立てるとともに、最終的には生産者の所得向上にも繋がりたいと考えている。

会社概要

会社名	株式会社中家青果
代表者	代表 中家 義輝
所在地	和歌山県紀の川市貴志川町北267
資本金	—
従業員数	17名
業種	柑橘類ほか桃、柿、梅などの果実卸
設立年月日	平成3年1月
TEL	0736-64-4145
FAX	0736-64-4531
E-MAIL	nakayaseika@soleil.ocn.ne.jp